

指揮：内藤 裕史（第1楽章）

国立音楽大学声楽科卒業。二期会第30期研究生修了。修了演奏会に出演。ミサ・オラトリオ等の宗教曲のソリストとして活躍する一方、二期会合唱団にも在籍。1991年より指揮者に転向。「齋藤指揮法」を高階正光氏に師事し、管弦楽・合唱の指揮・指導の研鑽を積む。プロ合唱団東京合唱協会指揮者に就任、文化庁主催公演をはじめ毎年数十回の公演に携わる。交響曲・宗教曲を中心に多数のオーケストラ・合唱団の指揮者として活躍、日本合唱指揮者協会会員に推挙される。「君が代」の旋律を題材に各国で作曲された作品を収録したCD「君が代のすべて」でフランス・オペラ「戦争」の合唱曲（本邦初録音）の指揮者を務め話題を呼ぶ。合唱祭の講評、校内音楽コンクールでは審査委員を務める。

指揮：渡部 智也（第2楽章）

国立音楽大学声楽科卒業、メディアアーツ尚美ディプロマコース修了、武蔵野音楽大学大学院修了。在学中より岸本力氏のもと、ロシア音楽を学ぶ。2003年モスクワ音楽院に留学しロシア音楽を研修する。声楽を岩淵嘉登、岸本力、A・ヴァラシエラ、Y・ニキータナの各氏に、指揮を永井宏氏に師事。二期会にて二期会ロシア東欧オペラ研究会、二期会ロシア歌曲研究会会員として活動。日本・ロシア音楽家協会会員。桐朋学園大学非常勤講師。「八ヶ岳音楽祭 in Yamanashi」合唱指揮、女声合唱団「コール・ヴェルテ」ヴォイストレーナー、「瑞穂混声合唱団」「藤の台コーラスこでまり」「東京男声合唱団(T.M.C.)」各指揮者。

指揮：伊藤 馨（第3楽章）

東京音楽大学卒業。指揮を小林研一郎氏に、声楽を水野賢司、田代誠の両氏に、ピアノを岩谷緑、山口優の両氏に、ドイツ・リート及び作品解釈法をヴァルター・モーア氏に師事。フォーレ『レクイエム』で指揮デビュー。J. マスネ『マン』、W.A. モーツァルト『バスティアンとバスティエンス』『レクイエム』、J. ブラームス『ドイツ・レクイエム』、J.S. バッハ『コーヒー・カンタータ』、ガスマン『レクイエム』（日本初演）等を指揮し、好評を博す。各地の合唱団、オーケストラやオペラ団体から指揮者、音楽スタッフ、プロンプターとして招聘される。東京オペラプロデュース、及び江東オペラ・音楽スタッフ。奏交響楽団・指揮者。

指揮：郡司 博（第4楽章）

指揮を山田一雄、ハンス・レーヴライン両氏に師事。朝比奈隆、若杉弘等内外一級の指揮者と共演し、プロオーケストラの代表的な演奏会でも活躍。いずれもその指導力は高く評価されている。バッハを中心とするオラトリオ指揮者としても活躍。ザルツブルグ大聖堂より5回にわたり指揮者として招聘された。ダブリンにて『メサイア』の指揮、ソウルナショナルアーツセンターにて『第九』を指揮。認定NPO法人おながくの共同作業場の代表として、13年に亘り<地雷で傷ついたアフガニスタンの子供たちに車椅子を贈るベネフィットコンサート>を続け、東日本大震災以降、音楽復興支援プロジェクトを立ち上げる等、精力的に活動している。

ピアノ：西尾 杏子

国立音楽大学附属中学・高校を経て、同大学卒業。東京芸術大学大学院修士課程修了。2005年、第15回やちよ音楽コンクール入選。06年、第7回日本アンサンブルコンクール優秀演奏者賞・全音楽譜出版社賞受賞。第7回大阪国際音楽コンクール入賞・エスポール賞受賞。10年、第7回かやぶき音楽堂デュオコンクール第3位。12年、アジア音楽祭にて東京フィルハーモニー交響楽団と共演。これまでに、瀧上千里、高尾茂治、土屋律子、植田克己の各氏に師事。現在、ソロ・室内楽・伴奏など幅広く活動を行う一方、東京成徳短期大学非常勤講師として後進の指導にあっている。日本演奏連盟会員。

ピアノ：小林 牧子

武蔵野音楽大学卒業。ピアノを水本雄三氏に師事。多くの合唱団のピアニストを務め、チェンバロ、オルガン奏者としても活動。スロバキアフィル、新日本フィルなどと共演、ラフマニノフ『ピアノコンチェルト第2番』、ベートーヴェン『合唱幻想曲』（ピアノ独奏）、サン＝サーンス『交響曲第3番』（オルガン独奏）を演奏。海外公演でも現地オーケストラと共演。チョン・ミョンフン、G.ベルティエニ、E.インバル等のピアノ伴奏を務めた。

ピアノ：早川 枝里子

新潟県出身。桐朋学園女子高等学校音楽科ピアノ科を卒業後、同学園カレッジディプロマコースを経て、2003年渡露。チャイコフスキー記念ロシア国立モスクワ音楽院本科を卒業後、同学園研究科にてディプロマを取得。12年の帰国後はソロ、室内楽の演奏活動ほか、合唱伴奏も精力的に行っている。これまでに岩倉知子、有賀和子、朴久玲、村手静子、ミハイル・アレーネフ、マルガリータ・フォードロバ、ミハイル・リツキーの各氏に師事。伴奏法をナターリア・ゴールヴェバ、室内楽をアレクサンドル・メルニコフ、ウラジーミル・スカナビ各氏に師事。新潟洋楽協会会員。

ピアノ：加畑 嶺

イタリアとリトアニアで行われたラザール・ベルマン氏のマスタークラスに招聘されファイナルコンサートに出演。コンサートへボウ小ホールデビュー。デン・ハーグ春の音楽祭にてジャン・イヴ・ティボーデ氏の公開マスタークラスに出演。モーツァルテウム音楽大学夏期音楽講習会にてドミトリー・バシキエロフ氏のクラスを修了。1年半のモスクワ留学を経てオランダ、デン・ハーグ王立音楽院ピアノ科にて研鑽を積む。ピアノを村手静子、ラザール・ベルマン、ナウム・シュタルクマン、ナウム・グルーベルトの各氏に師事。2013年に自身のタンゴ・ジャズ・ユニット「ジャクロタングス」において庄野真代とのコラボレーション・アルバム“CINEMATIQUE～シネマティック～”を日本コロムビア系レーベル、オーマガトキよりリリース。14年 STB139にて公演、客船「ばしふいつくびいなす」カムチャッカ・ツアーにてソロ・リサイタル開催。その精緻かつ大胆な表現、核心を衝く解釈により、クラシックのみならず幅広いジャンルでも活動の場を広げている。

ソプラノ：國光 ともこ

武蔵野音楽大学卒業、愛知県立芸術大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所を経て、文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリアへ留学。フランチェスコ・チレア国際声楽コンクール第2位、日本モーツァルト音楽コンクール第1位、日本モーツァルト音楽大賞2005、東京音楽コンクール第2位など国内外のコンクールで入賞。新国立劇場にて『オルフェオとエウリディーチェ』『影のない女』などに出演。メンデルスゾーン『賛歌』（読響定期）、『マタイ受難曲』『ヨハネ受難曲』『ロ短調ミサ』、ベートーヴェン『ミサ・ソレムニス』第九、フォーレ『レクイエム』などでソリストをつとめる。二期会会員

アルト：渡辺 敦子

同志社女子大学学芸学部音楽学科及び同大学特別専修修了。新国立劇場オペラ研修所第2期修了。文化庁在外研修員としてイタリア留学。アカデミアフィラルモニカ・ディ・ボローニャの声楽ディプロマを日本人初取得。新国立劇場『魔笛』侍女Ⅲ、日生劇場『カルメン』タイトルロール、二期会『フィガロの結婚』『マルチェリーナ』などオペラ出演の他、『メサイア』『アルトラブソディ』、ロッシーニ『スターバト・マーテル』、ヴェルディ『レクイエム』、ベートーヴェン『第九』、マーラー『復活』などのソリストとして東京都交響楽団などと共演、好評を得る。京都音楽家クラブ会員、二期会会員。

テノール：猪村 浩之

武蔵野音楽大学声楽科卒業、同大学院修了。第32回イタリア声楽コンクール入選。1999年よりイタリアに留学。ミラノ音楽院にて研鑽を積む。帰国後は数多くのオペラ に出演。第17回モンカルリエーリ国際コンクール第2位、第2回ブラームス国際声楽コンクール第2位を受賞。第17回佐賀銀行文化財団新人賞受賞。イタリアのカンツォーネを収録した CD「Per Te」をリリースした。

バス：豊島 雄一

武蔵野音楽大学音楽学部及び同大学院音楽研究科声楽専攻修了。『日韓合同ヴォーカルコンサート』での日本代表として東京とソウルにて出演。『メサイア』、バッハ『ロ短調ミサ』、モーツァルト『ハ短調ミサ』、メンデルスゾーン『ラウダシオン』、ヴェルディ『レクイエム』等のソリストとして活躍。北海道国際音楽交流会の奨学生としてイタリア・ミラノに留学。ヨーロッパ各地にて演奏会、オペラに出演。ハイメスコンクール第1位。パヴィア国際声楽コンクール第4位。フェルッチョ・タリアヴィーニ国際声楽コンクール入選。01年度社団法人青年会議所「人間力大賞」受賞。98年ミラノにて『リゴレット』タイトルロールでイタリアデビュー。以来藤原歌劇団、新国立劇場のオペラに多く出演。旭川、函館、長岡、東京にて帰国リサイタル開催。12年ザルツブルグ音楽祭にて『かぐや姫』公演に参加。藤原歌劇団団員、日伊音楽協会会員、武蔵野音楽大学講師。